令和５年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立茨田南小学校

令和６年２月

（様式１）

大阪市立茨田南小学校　　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

・令和４年度の全国学力・学習状況調査では、平均正答率で国語においては全国平均、大阪市平均を上回り、算数においては全国平均、大阪市平均をともに下回ったが、令和３年度の結果よりも向上しており、大阪市平均との差も縮まってきている。３年おきに実施される理科の調査では大阪市平均と同値であった。大阪市学力経年調査では、総合点において６年が大阪市平均を上回ったが、３・４・５年ではわずかに下回った。教科別では、各学年とも総じて国語科で高いポイントをあげており、５・６年の英語はともに大阪市平均を上回った。逆に算数科においては３～５年で大阪市平均を下回り低いポイントとなっており理科においても同様に課題がみられる。コロナ禍が沈静化しつつあり教育活動の制限が緩和されてきた今年度は、習熟度別指導や、理科専科授業などの効果的な学習形態を取り入れ、基礎･基本の学力の向上を図るとともに、研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業研究に取り組んでいくことが必要である。

・ここ数年のコロナ禍の影響の中、タブレットなどＩＣＴ機器を活用した学習を継続して取り入れることにより児童はいろいろな場面で積極的にＩＣＴ機器を活用して学習をすることができるようになり、低学年の児童のタイピング技術の向上もみられた。今年度も継続して取り入れていきたい。

・授業規律を守る順法意識は向上してきているが、自尊感情については高いとはいえない。学校安心ルールを定着させるとともに、思いやりの心や、ありがとうの気持ちを更に育てていく必要がある。

・令和４年度の「全国体力・運動能力､運動習慣等調査」の結果、男女とも体力合計点で大阪市平均を下回った。数年来課題であった長座体前屈の記録の向上は見られたが、コロナ禍の中、運動機会の減少が見られ、全国的な児童の体力低下が懸念されていることを踏まえ、今後もさらに継続して体力向上の取り組みを進めていかなければならない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・令和７年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を９０％以上にする。

・令和７年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させ、全校で８名以下にする。

・防災教育を実施するとともに、令和７年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・令和７年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３５％以上にする。

・令和７年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。

・令和７年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。

・令和７年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を５５％以上にする。

・令和７年度の小学校学力経年調査における正答率５割以下の児童を、いずれの学年も令和３年度より４ポイント減少させる。

・令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和３年度より５ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

・デジタル教材を活用した朝学習等を週２回以上実施する。

・令和 7 年度末までに、すべての教室（特別教室を含む）に大画面テレビ(大型ビジョン)を配備する。

・令和７年度までに、年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を１００％にする。

・令和７年度までに、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準１を満たす教員の割合を５０％以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を８０％以上にする。　【基本的な方向１、安全・安心な教育の推進】

・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】

・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】

学校園の年度目標

・防災教育を実施するとともに、令和５年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を８５％以上にする。
【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３０％以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を６０％以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

学校園の年度目標

・令和５年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。
【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】

・令和５年度校内体力テストにおいて長座体前屈の平均の記録を前年度より向上させる。　【基本的な方向５、健やかな体の育成】

・令和５年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和４年度より２ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。

【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

・年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を９５％以上にする。

【基本的な方向７、人材の確保･育成としなやかな組織づくり】

・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。

【基本的な方向７、人材の確保･育成としなやかな組織づくり】

学校園の年度目標

・各学年全員公開の研究授業をＩＣＴ機器を利用しながら行う。(計７回)

【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

・全教員１回以上、公開授業を行う。

【基本的な方向６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】

３　本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】

教育活動における制限が大幅に緩和されて、種々の行事や取り組みを精選を図りながらも従来の形に戻して実施することができた。いじめに関する取り組みも継続して行い、年間３回(学期に１回)いじめ(いのち)について考える日を設定し、その認知･解消に取り組んだ。

・経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対する最も肯定的な回答　R4：76.3%→R5：73.9%で、目標の 80%に届かなかった。ただ、肯定的な回答はほとんどの学年で、市平均を上回った。

・年度末校内調査「地震や津波のとき、どう行動したらよいか知っていますか」の問いに対する肯定的な回答は 96%で、指標の 85%を上回った。年間 3 回の避難訓練(火災･地震･防犯)や、地域との防災訓練の実施の成果が表れている。

【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】

・経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに対する最も肯定的な回答は R4：27.3%→R5：34.7%であり本年度の指標 30%を上回った。

・経年調査における国語･算数の正答率の全国比は、４年生･５年生において前年度より１ポイント以上向上した。

・学力経年調査における正答率が市平均の 70%に満たない児童の割合を、R4→R5 で同一母集団で比較すると、R5 4 年生で 6.4ﾎﾟｲﾝﾄ、R5 5 年生で 8.9ﾎﾟｲﾝﾄ減少し目標を上回った。来年度へつなげていきたい。R5 6 年生においては残念ながら国語、英語で増加がみられ、合計点では 4.8ﾎﾟｲﾝﾄの増加となった。今後の課題としたい。

・経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の問いに対する最も肯定的な回答は　R4：69.8％→R5：65.8％　であり、また校内調査でも 67％となった。校内調査 R4：67％→R5：67％　で昨年度と同値であった。
・令和５年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点は
男子：47.91　女子：47.67　であった。(R4 男子：46.19　女子：50.59)
男子は 1.72 ﾎﾟｲﾝﾄ上回ったが、女子は 2.92 ポイント下回った。

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

コロナ禍からの流れもあり、ＰＣを使った学習も定着してきており、各学年とも朝学習やﾓｼﾞｭｰﾙﾀｲﾑでのＰＣ利用を継続して行うことができた。
・年間 10 日以上の年休取得者の割合も今年度は年度内に指標に到達できると思われる。
・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げられた教員の勤務時間に関する基準に沿って教職員の時間外勤務時間を減少させるよう取り組んだ。基準２を満たす教員の割合は、指標の８０％を現段階では大きく上回り、１００％に達している。また中期目標である基準１の指標も今年度すでに達成できる見込みである。

来年度以降も、社会全体の取り組みである働き方改革を継続して進めていかなければならない。

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　　Ｂ：目標どおりに達成した
　　Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった　　Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・学校） **・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を８０％以上にする。　【基本的な方向１、安全・安心な教育の推進】** **・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。** **【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】** **・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。** **【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】** 学校の年度目標 **・防災教育を実施するとともに、令和５年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を８５％以上にする。** **【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】**	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①**【基本的な方向１、安全・安心な教育の推進】** ・児童によい生活習慣を身に着けさせる。 指標 ・アンケート項目「チャイムの合図をきいて行動することができていますか」で肯定的な回答の児童の割合を９０％以上にする。 ・不登校児童（年間３０日以上の欠席）の人数を昨年度より減少させる。	B
取組内容②**【基本的な方向２、豊かな心の育成】** ・子どもどうしの「よいところみつけ」に取り組む。 指標 ・「あいさつの大切さ」についての話し合いの機会を取り入れ、自尊感情を育てる。 ・アンケート項目「自分にはよいところがあると思いますか。」で肯定的な回答の児童の割合を７５％以上にする。 ・アンケート項目「あなたは困っている友達を助けることができますか。」で肯定的な回答の児童の割合を９０％以上にする。	A
取組内容③**【基本的な方向２、豊かな心の育成】** ・縦割り班活動を充実させたり他学年との交流を図ったりして、違いを認め合い、学	B

年を超えた仲間づくりや思いやりの心を育てる。 指標 ・「全校遠足」、「ハッピーフェスティバル」、「６年生ありがとう会」などの児童縦割り集会を実施する。	
取り組み内容④**【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】** ・防災教育の授業を実施し、防災に対する意識付けに取り組む。 指標 ・避難訓練を年間３回、各学級で防災に関する学習を年１回以上実施する。 ・校内アンケート「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こった時、どう行動したら良いかを知っていますか。」で肯定的な回答の児童の割合を８５％以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

・机上の整理を意識させたり、学校安心安全ルールを活用した指導をして、ルールを守ろうとする意識が高まった。
・いいところみつけ、ほめほめタイムなどに取り組み効果があった。
・いいところみつけなどを掲示し、視覚化したことがよかった。
・たてわり班活動では、他学年と交流を図ることができた。
・６年生が責任感を持って取り組み、頑張っていた。
・防災学習を継続してきた効果が出ていると思う。

次年度への改善点

★課題★
・不登校児童の把握、共有、分析が不十分では。
・不登校児童への対応、アプローチ方法を学校として決めて、その上で議論し有効な手立てを考えたい。
・いいところみつけが学級内で終わっており、もったいない。
・あいさつ運動期間外がどうしてもあいさつの声が小さくなる。
・同じたてわり班の児童の名前を覚えていない子がいる。
・取り組み内容③の指標だと、どうすればＡになるのかわからない。
・防災に関して、家庭との連携をもう少しはかれたら。
・地域で災害が起きたときの動き方（避難誘導など）の共通理解しておいた方がいいのでは。
・防犯の避難訓練を改善していく。

◎提案
・リモート参加を出席扱いにするのはどうか。
・よいところみつけの木　などで視覚化してはどうか。
・ハッピーレターなど感謝の気持ちを伝える　学級から学年へ。
・教室などで、もっと小グループで遊ぶ機会があればいいのでは。
・学年での交流があってもいいのではないか。

【不登校児童】

・２０２２年度　１５名　⇒　２０２３年度　２５名　　<u>在籍比率は悪化</u>

・昨年度より改善児童　３名　改善割合３÷１５＝0.2　<u>２０％</u>

不登校の原因にはいろいろある。
いじめ、学業不振など学校系１５％、家庭の原因１５％、無気力不安５０％
不登校の原因を分析して、学校で取り組める不登校にアプローチしていく。
数字にこだわらず、一人ひとりのケースを検討する。

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　　Ｂ：目標どおりに達成した
　　Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった　　Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標（小学校） ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を３０％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７０％以上にする。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を５０％以上にする。　【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 学校の年度目標 ・令和５年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。 【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和５年度校内体力テストにおいて長座体前屈の平均の記録を前年度より向上させる。　【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・令和５年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における５年生の体力合計点を、男女とも令和４年度より２ポイント向上させる。 【基本的な方向５、健やかな体の育成】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①**【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】** ・体験的活動やＩＣＴを活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。 指標 ・全ての学級でタブレットを活用した学習に週１回以上取り組む。 ・３年～６年は年３回以上、１年、２年は１回以上オンライン授業を行う。 ・アンケート項目「タブレットやデジタル教科書を使うと学習が楽しい」で肯定的な回答を８５％以上にする。	B

取組内容②【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・「『主体的･対話的で深い学び』に導く授業展開の追求」をテーマとして研究授業に取り組む。 指標 ・各学年､全員公開の研究授業を行う。（計７回） ・全教員１回以上の公開授業を行う。 ・アンケート項目「あなたは友だちと話し合う学習は好きですか」で肯定的な回答を８０％以上となるように取り組む。	B
取組内容③【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・児童の実態をより的確に把握し、単元教材に応じた効果的な授業に取り組む。 指標 ・アンケート項目「授業はよくわかりますか」で肯定的な回答を８０％以上となるように取り組む。 ・校内アンケートにおける「宿題をしていますか」の項目について､肯定的な回答をする児童の割合を９５％以上にする。 ・校内アンケートにおける「家庭学習（宿題以外の学習｡自主学習を含む）をしていますか」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を７０％以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向５､健やかな体の育成】 ・体力テストの校内平均値を向上させる。 指標 ・各学年で長座体前屈の校内平均値が上がるよう取り組む。	B
取組内容⑤【基本的な方向５､健やかな体の育成】 ・１年を通して全校で体力向上の取り組み（駆け足､縄跳び､ストレッチ体操）を実施する。 指標 ・校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より向上させる。 ・体力向上の取り組みを年間１０日以上実施する。	C
取組内容⑥【基本的な方向５､健やかな体の育成】 ・児童の体力向上を図ると共に、食育の推進に取り組む。 指標 ・アンケート項目「朝ごはんを食べていますか」で肯定的な回答を９５％以上となるように取り組む。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・多くの項目で達成しているが、学校と自宅とのオンライン授業の回数はクラスによって偏っている。 ・抽出授業でもナビマに取り組み、NHK for school で理解を深めた。 ・どの授業も楽しんで活用している様子だった。 ・朝タイムやモジュールタイムを活用し、週１回以上のタブレット学習に ｒ 取り組むことができた。また、デジタル教科書については主に国語・算数の授業で毎時間活用してきた。

それにより学校生活アンケートの肯定的な回答の割合は目標を達成できた。
・タブレットを使った学習をすることができている。委員会やクラブ活動でもタブレットを活用していた。
・タブレットを活用することで児童の興味関心を高めることができた。
・ロイロを活用して各教科取り組んだ。いのちについて考える日は学年で一斉に Teams で話を聞いたり読み聞かせをしてもらったりして、いのちやいじめについて考える機会ができた。
・タブレット操作にも慣れてきてスムーズにうごかすことができる。

取組内容②
・話し合う学習は好きですかという問いに、話すことが苦手な児童は否定的な回答をもつのもわかる気がします。８０％以上ではありますが、学習→活動として常日頃から話し合うような環境にしていけば抵抗はなくなるのかなと感じます。
・話し合う学習が自己の学習の深い理解につながっているかどうかについての検証が難しい。他者の意見を聞いて自己の思考が深まったかどうかを分析するには学習の「ふりかえり」が大切だと考える。
・計画通りに進んだ。
・各学年研究授業を計画的に実施することができた。話し合い活動において友達の意見を聞いて賛同したり疑問に思ったことは質問したりしながら進めてきた。また、全体発表のメンバーを輪番にすることにより意欲的に話し合い活動に取り組む姿も見られた。それにより学校生活アンケートの肯定的な回答の割合は目標を達成できた。
・抽出授業でも話し合ったり、教えあったりする時間を設けた。入り込みではひまわり児童が話し合いに参加できるようにサポートした。
・公開授業がどうしても年度末にかたよってしまい参観が難しい。

取組内容③
・１年生は自主学習をするのは難しいので週に１回作文の宿題をだしている。
・経年調査、体力テストの結果がわからないので明確なことは言えないが楽しみながら学習している姿はよく見られる。
・家庭学習の指標は必要ないと思う。
・年間指導計画を学期ごとに立て、児童の実態を把握し教材研究を行った。
・各学年の実態に応じて習熟度別少人数指導など学習形態を工夫してきた。また課題のある児童に関して放課後等空き時間を活用し個に応じた指導を行ってきた。それにより画工生活アンケートの肯定的な回答の割合はどの項目においても目標を達成することができた。
・家庭学習をしている児童の割合が少なかったが塾の宿題等もふくまれていることを伝えることで７０％以上の肯定的な回答がでた。
・習熟度別少人数指導や教科担任制などの学習形態を取り入れて効果的な授業に取り組んだ。
・授業のふりかえりを活かし授業改善ができているかどうかを分析する必要がある。
・家庭学習の質の向上を検討していく時期ではないだろうか。
・読書環境の整備不足。
・授業、学習への意欲は高い一方自主学では低く見られる。

取組内容④【基本的な方向５、健やかな体の育成】

体力テストの校内平均値を向上させる。

・体育の授業で柔軟体操を取り入れたり、体ほぐしの運動を行ったりするなど、長座体前屈の記録向上につながる取り組みは行った。

・長座の平均は上がったが、大幅な記録更新とまではいかなかった。

前年度（前学年）⇒今年度 体力テスト（長座体前屈）の記録

【前年度･今年度 体力テスト 各学年長座体前屈の平均値】

長座	前年度・春記録（cm）	R5 年度記録（cm）
2 年生	25	29
3 年生	25	32
4 年生	33	32
5 年生	26	34
6 年生	31	39
平均	28	33.2

取組内容⑤【基本的な方向５、健やかな体の育成】

１年を通して全校で体力向上の取り組み（駆け足、縄跳び、ストレッチ体操）を実施する。

・全校で駆け足、縄跳び週間を設定し、がんばりカードの使用や、表彰などの取り組みにより、外遊びへの意欲や子どもの体力向上への意識が高まった。

●アンケート結果

「運動することが好き」肯定的な回答　前回８３％⇒今回８２％

取組内容⑥【基本的な方向５、健やかな体の育成】

児童の体力向上を図ると共に、食育の推進に取り組む。

・朝ごはんを食べる児童は、中高学年になるにつれ減っている傾向がある。寝る時間が遅くなり、朝起きる時間も遅くなっている。

・

・月ごとの食育だよりや委員会の掲示により、食べ物に対する意識は高まっている。また、食育の授業や生活習慣を見直す一週間の取り組み（早寝早起きウィーク・給食週間・給食標語）を行ったことにより、朝食をとることや睡眠の大切さに対しても意識が高まった。

●　アンケート結果

「朝ごはんを食べていますか」肯定的な回答　前回９２％　⇒　今回９３％

次年度への改善点

・自主学の頻度や出し方を変える。

・オンライン授業の取入れ。

・家庭学習の内容を吟味。児童が主体的に取り組みたくなる内容を検討していく。

・タブレット学習の内容の吟味。効果的な活用を研究。

・デジタル教材の効果的な活用方法の研究。

・学びの足跡、児童が自らふり返り、自己の課題改善が可能となる授業を研究していく。

・読書環境を充実（朝読タイムの内容）
・話し合い活動が充実していきているので、今後も継続していく。
・宿題に取り組むことが難しい児童がいるので、宿題へのアプローチを工夫する必要がある。
・公開授業はどの時期に何人、という目標を設定して周知していくといのではどうか。
・前回の話し合いでもあったが、家庭学習の割合が７１％とギリギリなのでこちらからの具体的な提示が必要だと考える。
・自主学習を来年度も含めることや読書なども本によっては学習に含まれるのかを検討すれば数値はあがるかもしれない。

指標④
・ 長座体前屈において、今回の記録と前年度の記録を比較しても、大幅な記録更新にはならなかった。そのため、柔軟性は日々の積み重ねが重要であり、一過性の体力テストでは記録を伸ばしていくことは難しいのではないかと考える。
・ 指標に取り入れていくのなら、小さい校舎・運動場での体力アップの実施内容を再考していく必要がある。（例えば、シャトルランや反復横跳びなど、場所が狭くても記録を取りやすい種目で取り組むなど）
・ 体力向上のための取り組みは、学年によって差がみられる。また一定期間のみ取り組んでも体力向上は難しいため、児童が主体的に取り組みたくなるような環境整備も必要。全校としての取り組みを工夫したほうがよい。（なわとび板の設置）
（通年するものと時期をきめて取り組むなどにわけてみては）
・ 体育の準備運動にストレッチ体操・かけ足・縄跳びを順に加える
⇒季節に応じてルーティーン化する。

指標⑤
・ なわとびについては、個別の活動と長縄のように学級として取り組むものとに分けることで新たな取り組みをすることができた。今後の続けていくために、大縄指導の研修会を実施し、効果的な指導法を身に着ける学習会を計画する。
・ せまい運動場でいかに児童の運動量を増やすのか、また維持していくのかについて考える必要がある。（様々な遊びの提案）
・ 運動場がせまく、外で遊ぶ児童が減少しているため、「外で遊ぼう週間」などを運動委員会が計画してもよいのでは。（なわとび週間のかわりに）
・ 遊具や固定施設の充実化。休み時間に自由に取り組めるサーキットの紹介やがんばりカードの活用。一輪車や砂場、フラフープ、竹馬の整備。
・

取組内容⑥
・ 寝る時間が遅くなる原因として夜遅くまでのスマートフォンやゲーム等の夜更かしが考えられるため、その点を改善していく必要がある。
・ 食べていない児童に食べてくるように促すと、朝食をとってから登校するようになったので家庭への啓発だけでなく、本人への声かけは、継続して指導していく必要がある。
「朝ごはんを食べていますか」の肯定的な回答の指標を下げてもいいのでは。９０％

（様式２）

大阪市立茨田南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小学校） **・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。** **【基本的な方向６、教育ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】** **・年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を９５％以上にする。** **【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】** **・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。** **【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】** 学校の年度目標 **・各学年全員公開の研究授業をＩＣＴ機器を利用しながら行う。（計７回）** **【基本的な方向６、教育ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】** **・全教員１回以上公開授業を行う。** **【基本的な方向６、教育ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】**	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①**【基本的な方向６、教育ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】** ・朝の会、モジュールタイム等を活用してデジタル教材、協働学習支援ツールを活用した学習に取り組む。 指標 ・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。	B
取組内容②**【基本的な方向６、教育ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】** ・ＩＣＴを活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。（再掲） 指標 ・全ての学級でタブレットを活用した学習に週１回以上取り組む。 ・３年～６年は年３回以上、１年、２年は１回以上オンライン授業を行う。	B
取組内容③**【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】** ・学校行事の取り組み時間を見直し、行事等の精選をはかる。また、ゆとりの日を週１回設定し実施する。 指標 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①～③

・ＩＣＴ機器を活用した授業に取り組み児童の興味･関心を高めることができていると思われる。
・ＩＣＴ教育の学年目標等の設置が必要ではないか。
・デジタル教材を使って個別に学習を年間通して取り組んだ。
・1年～できるところからどんどんと進め、金ﾘﾎﾞﾝﾄﾛﾌｨｰをとれるように目標をもって取りくんだ。学級でどの程度どの児童ができているか確認できるように(支援員の協力も得ながら)なればよいと感じた。
・デジタル学習は、十分に取り組めていると感じる。
・公開授業は予定通り取り組めている。
・ほぼ毎日ＩＣＴを活用した授業を行った。
・朝学習でのﾀﾌﾞﾚｯﾄ使用はむずかしいように感じた。

学校の年度目標に対して

・各学年全員公開の授業を計7回2月時点で行った。
・2月時点でほぼ全教員が公開授業を行った。

取り組み内容④

・昨年度より会議が減ってよいと思う。
・働き方改革も進んでいると思う。
・昨年度より退勤が早くなった教員が増えたように感じる。

３　茨田南小学校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率（１月時点）

項目	今年度	昨年度
基準１	59.46%	44.12%
基準２	100.00%	88.24%

次年度への改善点

取り組み内容①～③

・授業でのデータを保存し次年度以降も教材として活用できる方法を研究していくことが求められる。
・系統的に操作スキル、情報処理能力等を養っていくことが大切。
・教員の指導力向上のための研修が必要。研修会の改善(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ形式の研修方法等)

取り組み内容④

・ゆとりの日の設定の徹底。
・不十分であった学校行事のさらなる見直しと精選。

※「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２

基準２　ア　１年間の時間外勤務時間が 720 時間を超えないようにすること
イ　１か月の時間外勤務時間が 45 時間を超える月を 1 年間に 6 月までとすること
ウ　１か月の時間外勤務時間が 100 時間を超えないようにすること
エ　連続する複数月（2 か月、3 か月、4 か月、5 か月、6 か月）のそれぞれの期間について時間外勤務の１か月当たりの平均が 80 時間を超えないようにすること

※基準１‥時間外勤務時間→1 か月 45 時間以内、1 年間 360 時間以内